

辺野古に基地はいらない

美ら海を守れ!

圧倒的な沖縄の 声を示そう

2月24日は沖縄県民投票

沖縄県民は、これまで何度も「辺野古に基地はいらない」と、民意を示してきました。昨年の県知事選挙でも「基地建設容認」の政権丸抱えの候補者を破って、玉城デニー知事が過去最高の39万票を獲得して圧勝しました。しかし、政府は「選挙の争点は辺野古だけではない」と言い訳して、民意を無視して、違法・無法な工事を強行し、赤土の混じった土砂を辺野古の海に投入しています。

青い「美ら海」を壊す工事は、今すぐ止めなければなりません。県民投票で、圧倒的な民意を示して、工事を止めましょう。

「命を守れ」「命の海を守れ」「平和を守れ」沖縄の願いは、全国の願いです。「辺野古に基地はいらない」沖縄と心ひとつに、全国から声を上げましょう。



「空から米軍が降ってくる」 普天間基地はいますぐ閉鎖を

沖縄・宜野湾市のど真ん中にある米軍普天間基地は、住民の命を脅かし、騒音や被害をまき散らしています。1972年以降だけでも普天間基地所属のヘリコプターやオスプレイの事故は137件、米兵の死者は50人以上にのぼります。

2017年12月、基地に隣接する普天間第二小学校と緑ヶ丘保育園に、米軍ヘリから部品が落下しました。一歩間違えば大惨事です。普天間基地の危険を「移設」してはいけません。「無条件撤去」こそ解決の道です。

「①オスプレイ配備を直ちに撤回すること、②米軍普天間基地を閉鎖・撤去し、県内移設を断念すること」を求めて2013年1月、沖縄すべての41市町村長・議会議長が連名で安倍首相に「建白書」を提出しました。

これが、沖縄県民の総意であり、団結の要です。

辺野古に基地を 造ってはならない、造れない

辺野古新基地建設予定地周辺の学校や民家の上を、墜落事故を繰り返すオスプレイが飛んでよいのでしょうか？さらに、辺野古弾薬庫近くには活断層が通っています。

埋め立て予定地の大浦湾側には、マヨネーズ状の超軟弱地盤が確認されており、そもそも工事が可能なのが疑問です。沖縄県は、この基地建設に総額2兆5500億円、最低13年間かかると試算しています。最悪の無駄遣いです。

何よりも、辺野古の海は生物多様性の宝庫です。絶滅危惧種262種を含む5800種以上の生物と、7万4000群体のサンゴが棲息しています。政府は、環境保全の協議も行わず工事を強行し、安倍首相は「サンゴは移植した」など見え透いたウソをつく始末です。

この基地は日本を守るものではありません。辺野古に基地を造ってはなりません。そして、辺野古に基地は造れないのです。